

学年	高校1年	教科	国語	科目	現代の国語	単位数	3
教科書名	現代の国語（数研出版）			副教材名	なし		
コース・クラス	選抜・N進						

## I. 目標

- 1 文章を的確に理解する能力、豊かな想像力を育成するとともに、自分の意見を発表する能力を養成し、国語力を向上する。
- 2 読書を通して文学に対する関心を深め、言語感覚を豊かにし、国語を尊重する態度を育てる。

## II. 授業のねらい

- 1 文章を読み、構成や展開、要旨について明らかにし、自分の考えをまとめるとともに、説明する力をつける。
- 2 文章を読み、主題を的確に読み取った上で、自然・哲学・芸術分野や時事問題など幅広い視点から主題を捉え、自分の意見を発展させる。
- 3 登場人物の心情や動作を表す文章に着目しながら、自分の解釈を整理し、文学作品及び文学史に対する理解を深める。
- 4 語句の意味、助詞や接続詞を始めとする国語の文法について理解し、読解問題の基礎を学ぶ。

## III. 授業の進め方

- 1 文章内容の理解を主とし、発問形式による教授方法やグループ学習によって学習を進める。
- 2 講義形式／電子黒板・ICTなどのツールを活用し、様々な表現方法を身に付ける。
- 3 実力を確認することを主とし、小テストや確認テストを随時実施する。
- 4 「文芸コンクール」に向けての学習や準備も随時組み込む。

## IV. 学習上の留意点

- 1 教科書の新しい単元に入る際は、予習として意味調べや作品の通読を行うこと。
- 2 授業中には、板書や必要な情報をノートに書くこと。
- 3 配られた資料や定期試験の問題用紙・解答用紙は各自で保管すること。
- 4 毎時教科書、ノート、副教材、iPadを授業前に準備し、机の上に置いておくこと。
- 5 小テストを実施するため、事前に学習すること。

## V. 定期試験（状況によって変動する場合がある）

- ・一学期中間試験……『水の東西』、『コミュニケーション能力とは何か』、『感情暴走者会の由来』
- ・一学期期末試験……『わらしべ長者の経済学』、『ポスト・プライバシー』、『デジタルメディア時代の複製』
- ・二学期中間試験……『ものごとことば』、『知識のシステムを作る』、『事実なのか考えなのか』
- ・二学期期末試験……『科学コミュニケーション』、『時間と自由の関係について』、『デジタルメディア時代の複製』
- ・学年末試験……『白』、『無痛化する社会のゆくえ』

## VI. 評価の方法

- 1 定期試験・進研模試・スタサプ…授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- 2 小テスト…計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- 3 提出物…積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

Ⅶ. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	・『水の東西』（評論）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・進研模試</li> <li>・スタディサプリ到達度テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二項対立を用いた評論の構造を理解する。</li> <li>・西洋文化と日本文化の特徴の違いや、文化に対するそれぞれの思想や考え方を把握する。</li> <li>・様々な事例を参照しながら、コミュニケーション能力とは何かという定義を思考する・</li> <li>・個人主義・自由主義的な生活が高じた結果、理性が脆弱になっている現代人の在り方に対する問題提起を捉える。</li> <li>・一般的な解釈と筆者の専門的な解釈の対比を起点にして、経済学の考え方を理解する。</li> <li>・「自己のアイデンティティは、基本的には個人自らが作る」という一文への問題意識を捉える</li> <li>・「原形芸術」と「複製芸術」という対比を捉える。</li> </ul>
	5	・『コミュニケーション能力とは何か』（評論）		
	6	・『感情暴走者会の由来』（評論）		
	7	・『「わらしべ長者の経済学』（評論）		
		・『ポスト・プライバシー』（評論） ・『デジタルメディア時代の複製』（評論）		
二学期	9	・『ものごとば』（評論）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・進研模試</li> <li>・スタディサプリ到達度テスト</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語学の基礎を学び、「認識」における「言葉」の役割を実感的に理解する。</li> <li>・言語は記号の体系であり、記号同士の関係のネットワークの中でしか意味を持ちえないものであるということを理解する。</li> <li>・「事実の多面性」について理解する。</li> <li>・「人が文系と理系に分かれる」違いを巡る筆者の考え方について論点を整理し、その上で自分の意見をまとめる。</li> <li>・「時間」と「自由」の関係について、身近な例を出し、他者と意見を交換しながら、筆者の主張を導き出す。</li> <li>・自然科学の成果を踏まえた上で、ちゆきゅう環境問題を捉える。</li> </ul>
	10	・『知識のシステムを作る』（評論）		
	11	・『事実なのか考えなのか』（評論）		
	12	・『時間と自由の関係について』（評論） ・『動的平衡の回復』		
三学期	1	・『白』	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・進研模試</li> <li>・小テスト</li> <li>・提出物</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色としての「白」が持つ多義性や特異性を理解し、「白」から連想されるものや概念について考える。</li> <li>・多用される抽象的な概念を表す語句や表現を的確に読み取り、筆者が「白」をどのように捉えているか追究する。</li> <li>・生命学を中心に哲学的な思考を理解する。</li> </ul>
	2	・『無痛化する社会の行方』		
	3			

※ シラバスの内容については、理解度やその他の都合により変更することもあります。